
スコープから見る世界

久和

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スコープから見る世界

【Nコード】

N7029K

【作者名】

久和

【あらすじ】

彼等を見る。

荒んだ戦場を。

そのスコープから。

彼等は何を見て、感じ、考えるのか。

命、家族、戦友。

成人も迎えぬ若者達が、戦場で何を失い、得るのか。

2012年、この日本で。

初弾

- 今も、この国のどこかで銃声が轟く -

硝煙の匂い、鉄の匂い。そして、血肉の燃える匂い。

銃弾と迫撃砲弾の雨は止み、戦場に束の間の静寂が訪れる。

彼等は時を待つ。スコープのレティクルの中心に捉えた敵兵の頭を撃つ瞬間を。

敵兵が膝を地面に着き、頭から脳髓を撒き散らす瞬間を。

「風が止んだ。距離450。撃つなら今です。」

スポッターがそう告げた瞬間、彼は応じることもなく彼の愛銃（ソリッドストックタイプのM14EBR）の引き金を引いた。

撃針が前進し、雷管を打つ。銃身を7.62mm弾がライフリングによって回転しながら銃身を飛び出した。

「どこだ…。どこだよ…。頭がイカレちまいそうだ…クソツタレの狙撃手め。見つけたらタダじゃおか…。」

敵兵はのけぞる様に倒れる。脳髓を撒き散らしながら。

「ONE shot ONE kill 流石ですね隊長。」

スポッター、神崎 鈴はギリスーツを脱ぎ捨てながら言う。

「鉄則だ。皆に合流するぞ。」

そう言うと彼、日向 誠司朗はM14EBRを持ち上げ、戦場を後にした。

- 今日もまた、命が散る。戦場で。2012年、この日本で -

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7029k/>

スコープから見る世界

2010年10月28日03時51分発行